

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 くじら 組	6 月 27 日 (金)	小門口

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス～天気～ 虹の色は何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>毎日の天気を気にかけようになり、晴れ、雨、くもりなどの天気は知っていた。虹の話を持ちかけると、「前に見たことがあるよ」と言う子もいれば、絵本で見たことがある、という子もいた。梅雨が続き、「なんで雨が降るんだろう」と不思議に思う子もでてきた。</p>		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ・天気にはどんな天気があるのか、子どもたちが知っている天気をそれぞれする。 ・雨が降った後にできるものはなにかを問いかけながら虹という言葉にたどりつけるような話をしていく。 ・虹という言葉がでたら、今回は虹についての活動することを伝える。 ・虹はどんなときに見えるのかを考え、発表する。その際は、子どもたちが知っていること、考えたことを共有し、一緒に考えていく。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虹の写真を用意し、虹を見たことがない子でもイメージを持てるようにする。 ・安全に実験ができるスペースを確保する。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虹のイラスト、写真 ・色鉛筆 ・ペットボトル3本 ・アルミホイルをつけた懐中電灯 ・白い紙3枚 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虹のイラストを枚数分＋予備印刷する。
10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が思う虹の色塗りをするよう伝え、想像してそれぞれが感じた色で塗っていけるよう伝える。 ・出来上がった虹を掲示し、みんなで見合う時間を作る。 ・懐中電灯、アルミホイル、ペットボトルを使って実験を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に実験を行い、子どもたちに実験のやり方や助言を伝えられるようにする。 ・アルミホイルをつけた懐中電灯を用意しておく。 <p>【実験準備】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①アルミホイルに切り込みをいれる。 ②切り込みがライトの部分になるように懐中電灯にかがせ、輪ゴムで留めておく。
10:25	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の手順を知らせ、どうなるかを考えて発表する。 ・難しそうにしているときは、問いかけながら援助をする。 ・実験のやり方の見本を見せる。 ・水に光を通すことで虹が現れる様子を観察し、実際に体験する。 ・実際にいろんな角度から光を当て、虹ができる様子を観察する。 	<p>【実験】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ペットボトルに水をいれ、懐中電灯の光が反射する位置に紙を置く。 ②懐中電灯とペットボトルの角度を見ながら紙の位置を変えたり、ライトの照らし方を変えながら虹の映る場所を探す。 <p>☆実験がうまくいかなかった場合は他のグループに見せてもらったり、試したりできるよう援助をしていく。</p>
10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・虹できるには何が必要だったのかを発表し、雨が降った後に虹ができることを知らせ、期待を持てるようにする。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・虹のことを知っていても、実際に見たことがないという子が半分くらいいた。写真を見たり、子どもたちのイメージする虹の色を話しながら色塗りを楽しんでいた。</p> <p>・実験のやり方を聞き、水に光を通すと虹が現れることを知り、期待を膨らませていた。</p> <p>・実際に実験をすると、光の入れ方や角度に苦戦していた。その中で、グループの友だちといろいろな角度から試し、小さい虹が見えると喜ぶ姿があった。</p> <p>・今後の水遊びでも太陽があつたら虹が見えるのか、という質問もあがり、虹ができる条件(光と水)に興味をもっていた。</p>	<p>【子どもの姿】</p> <p>・「虹を見たことがない」という子に、いつ虹が出るのかを教えてあげていた。</p> <p>・実際に実験をして、小さな虹が見えると成功を喜び、「虹ができたよ」と他のグループにも教えて喜びを共有する姿があった。</p> <p>・実験で見えた虹の色と想像していた虹の色が違うことに気づき、「〇〇色はないんだね」など、感じたことを話していた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・子どもたちのイメージを受け入れたり共感したりして、虹への興味関心を深めていった。</p> <p>・意欲的に参加できるように、実験の予測ができるような声掛けや質問をした。</p> <p>・水遊びの際に虹ができるのか、という疑問を実際に再現できるように、今後の活動に期待を持てるようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・活動を通して、虹に必要なものが水と光であることを理解していた。実際に水遊びの際に虹が作れるのかという疑問にたどりついたことにも感心した。</p> <p>・子ども同士で、試行錯誤しながら虹を作り出そうとする姿が見られ、徐々に意見を伝えあえるようになっていっていた。また、発表する際も、以前は恥ずかしがっている子もいたが、回数を重ね、自信をもって人前で話せるようになっていっていた。今後も励ましながら見ていく。</p> <p>・実験での集中力がいつも以上に見られた。日常で、子どもの「好き」や「なぜ」に耳を傾け、活動に取り入れていけるようにしたい。</p> <p>・保育者が撮った虹の写真を見せ、虹がどんなものなのか、何色なのかに興味をもっていた。</p>	

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 くじら 組	7 月 28 日 (月)	小門口

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの～水～ 水ってなに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>水遊びが始まり、水を汲んで「重いね」と話したり、冷たさを楽しんだりする姿が見られている。また、氷遊びや色水遊びを通して、水への興味関心を持っている様子がある。いろんな容器に水を入れたり、固めたら氷になるかな、と想像を膨らませている。</p>		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ・水とは何かを問いかけ、それぞれが思うことを発表する。 ・子どもたちの意見をまとめる。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全にできるよう、環境を設定し、観察する際は全員が見えるように配慮する。 ・子どもたちが自由に発言できるような雰囲気を作り、共感したり受け止めたりする。難しそうにしているときは、問いかけながら予想につなげていけるようにする。 ・水を扱う際、床に水がこぼれたらすぐに拭けるようタオルを用意し、転倒に留意する。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水 ・様々な形の容器 ・びにーる袋 ・バケツ ・電気ポット ・氷 ・タオル <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氷を子どもたちと一緒に作っておく。 ・様々な形の容器を用意する。(お皿、コップ、カップなど) ・ポットでお湯を沸かし、熱くなっていること、危険であることを十分に周知する。
10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・水をコップやバケツに入れて観察する。 ・様々な形のカップに水を入れて、形の変化を探究してみる。 ・ビニールに水を入れて触って完食を味わう。 ・水道を見たりしながら水の流れを探索する。 ・ポットでお湯を沸かしたり、氷を用意したりして、温度で水がどのように変わるのかを調べてみる。 ・観察して気付いたことや思ったことを発表する。 	
10:25	<ul style="list-style-type: none"> ・水の性質について確認し、次の活動に期待を持てるような話をする。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・水とは何なのかを問いかけ、「手を洗ったり、水遊びしたりするお水」と答えたり、「水を飲んでもよ」「うがいもしてるよね」など、水をどんなときに使っているのかを考えて答えていた。</p> <p>・水のおい、流れる音から始まり、氷に変わったらどんなにおい、音がするのか、お湯はどう変化するのか、想像を話しながら探究していた。</p> <p>・袋に入れた水を触り、形の変化を不思議そうにしていた。水道から流れる水はまっすぐなのはどうしてだろう、など、疑問を友だちと話していた。</p>	<p>【子どもの姿】</p> <p>・「ジュースとお茶もお水からできてるのかな」「お家でママがお茶を作るときにお水で作ってたよ」など、普段口にする飲み物からも想像していた。</p> <p>・「袋に入れたら気持ちいい」「いろんな形に変わっておもしろい」など反応があった。</p> <p>・気付いたことを友だちに伝えあっていた。</p> <p>【保育者の関わり】</p> <p>・子どもの気付きに「じゃあこの飲み物はお水かな」など、問いかけをして想像を膨らませられるようにした。</p> <p>・一人の発見をみんなで共有できるような雰囲気づくりをして、一緒に試したり気付きから発展できるような声掛けを意識した。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・普段から使っている水への興味関心が思っていたよりも強く、意見を伝えあう姿も多く見られた。</p> <p>・「なんでだろう」「おもしろい」などの言葉が以前よりもたくさんあがり、探究を楽しんでいる様子があった。</p> <p>・「これはどうだろう」と自分たちから探究を深めようとしていた。その探究を深めていけるよう、子どもの声を予測して他にも素材を用意しておけたらよかった。</p> <p>・保育者も一緒に考えたり、探究したりして、発見や不思議に思ったことを共有して楽しく進めていくことが大切であると改めて感じた。</p>	

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 <じら 組	12 月 23 日 (火)	小門口

● 実施計画

活動テーマ	
アート～この絵どんな絵？～ 名画から技を学ぼう！	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
日々の遊びや活動の中で、保育室内の絵や絵本などを真似して描いたり映し絵をしたりして遊ぶ姿が見られる。「これってどうやって描くんだろう？」と保育者に質問したりすることもあり様々な表現方法に興味を持ち始めている。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
13:00	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、どんなことをしたのか、また絵を描く以外にも絵画の作品が作れることを思い出せるようにする。 ・遠近法を使った絵を見せ、「どうやって描かれているかな？」と問い、書き方について考えるきっかけを作る。 ・富士山のような遠くのもの手音にあるものの大きさの違いについて話し合う。 ・実際に室内のものを使って、遠くにあるものが小さく見えることを体感する。 ・遠近法の基本を知ることができるようにする。 ・遠近法の書き方を真似して描いてみる。 ・自分で描いた作品を発表し、工夫したところや難しかったところを話し合う。
13:15	<ul style="list-style-type: none"> ・目で見た形や景色と頭で考えて描く絵は違ってくることを確認する。
13:35	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に書いてみた後、名画の描かれ方について知り、次回の活動について触れ、期待を持てるようにする。
【環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが見やすいように環境を整える。 ・各自が製作しやすいようにスペースを確保する。 ・遠近法が使われた絵画を掲示し、視覚的な参考にできるようにする。 ・正解を求めるのではなく、予想し合えるような雰囲気を作る。 【準備物】 <ul style="list-style-type: none"> ・A4コピー用紙 ・鉛筆 ・消しゴム ・定規 ・ホワイトボード ・テープ 【事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> ・遠近法の書き方を確認し、描けるようにしておく。 *添付資料あり 【遠近法体験の手順】 <ul style="list-style-type: none"> ・白い紙に十字の折り目をつける。 ・全て開き、中心に黒い点を打つ。 ・点から三角になるように線を引く。 ・三角形に横線をかく。 ・三角の両脇に隙間を開けて2本ずつ斜めの線を引く。 ・点の近くに小さな木の絵を描き、三角のへんが一番開く方へ向かって少しずつ大きな木を描く。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・遠近法と聞いて「よくわからない」と話す姿もあったが、いろんな例を挙げたり実際に室内にあるもので見てみることで、どんなことが遠近法なのかを理解している様子があった</p> <p>・書き進めていくと、「本物の道路みたい」「木の大きさを変えると遠くにあるように見えるね」という発言が聞かれた。</p> <p>・初めて使う定規に、どうやって引くのか悩ませる姿もあったが、真っ直ぐ引くことができるようになると、斜めに弾くこともスムーズにできるようになっていた。</p> <p>・難しかったこと、実際に書いてみて面白いと感じたことなど、積極的に話しあっていた。</p>	<p>【活動中の子どもの姿、声】</p> <p>・「富士山って遠くから見ると小さく見えるよね」「スカイツリーは近くに行くと大きいのに遠くから見ると小さいよ」など、身近なところから考えていた。</p> <p>・「本当の道路みたい」と話しながら書き進め、完成すると、「車も大きさを変えて描いてみようかな」とさらに絵を書き足していた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・「遠くのものと同じのものを見たときにどんなふうに見える？」と問い、子どもたちの八卦にや気づきに共感しながら見え方の違いに関心を持てるようにした。</p> <p>・「斜めに引いてみよう」など、書き方の工夫を促した。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・今までの錯覚の印象が強かったが、実際に遠近法の絵を観察したり自分で描いてみることで、遠近法の面白さや書き方の違いについて関心を持っている様子があった。</p> <p>・道路は真っ直ぐ、という固定観念を持っていたところに、斜めに線を引いて本当の道路みたいに見えたことで、消失点の概念に気づいたり線の弾き方を工夫したりしながら取り組んでいた。</p> <p>・「太く描いたらどうなるかな」「たくさん線を引いたらどう見えるんだろう」という疑問が上がり、活動を通していろんな視点に関心を持っている様子があった。</p>	